

育成を目指す資質・能力

物語と作者についての資料を合わせて読み、資料と物語のつながりに気付き、作品や作者に対する自分の考えを表すことができるようにする。

事例の概要

【とらえる】

- ・「やまなし」の2枚の情景の様子を簡単な絵や図で表す。
- ・「イーハトーヴの夢」を読んで、宮沢賢治の生き方や考え方を知る。

作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう

【ふかめる】

- ・作者の独特な表現（言葉）に着目して2つの場面对比し、感じたことや考えたことをまとめる。
- ・「やまなし」を題名にした理由を考える。

【まとめる】

- ・作者が作品にこめた思いについて考え、どのような点からそう考えたのかを明らかにして、文章にまとめる。

【ひろげる】

- ・友達の書いた文章を読み、自分の考えと比べて、感想を伝える。

【ICTの活用ポイント】

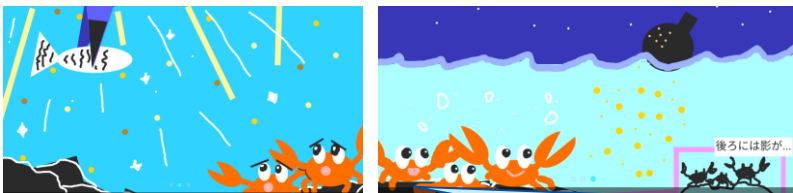
- ・筆者についての解説動画などを参考資料として活用することで、説明文の読み取りや作品とのつながりを考えやすくなる。
- ・語の情景や資料のまとめがしやすい。
- ・まとめたものを友達と共有でき、自分に生かしやすい。
- ・資料を蓄積しやすく、活用しやすい。
- ・作品や作者に対する自分の考えを書くとき、推敲しやすい。
- ・グループやクラス全体での話し合い場で、自分の考えが伝わりやすい。

【事例におけるICT活用の場面】

- ①「やまなし」の2つの情景を学習支援ソフトを活用して絵や図で表し、提出されたものを大型提示装置で拡大提示し、クラス全体で共有する。
- ②「やまなし」を題名にした理由について、学習支援ソフトの協働編集機能を活用して記述し、友達と伝え合う。
- ③資料「イーハトーヴの夢」を活用して、宮沢賢治の生き方や考え、また、自分の考えや感想などを学習支援ソフトでまとめる。

【国語科・6学年・「やまなし」「イーハトーヴの夢」②】

【事例におけるICT活用の場面①】



「五月（かわせみ）」と「十二月（やまなし）」の川の様子を本文の言葉から想像し、学習支援ソフトを活用し絵や図で表した。川の色やカニの表情なども変えている。絵が苦手な子もコピー・貼り付けの機能を活用していた。

【事例におけるICT活用の場面②】

やまなし
の。くて好きなもの。

かわせみ
の。覚えてるもの。

「かわせみ」、「やまなし」はカニの親子に「ついで」なんでもかき上げるといって、

個人カード

全員のカードを表示

【問題文】宮沢賢治さんは、なぜ「十二月」にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのか、理由を考えて書きましょう。
50～80字くらいで書きましょう。「みんなの広場」へ送ってください。

5月でカワセミに対して恐怖を覚えたカニたちが12月になって怖いカワセミではなく、美味しそうなやまなしが落ちてきて世の中は怖いものだけでないことを示しているのかな？

「イーハトーヴの夢」を読んでから

「かわせみ」ではなく、「やまなし」を題名にした理由は？ →広場2へ

どんなに辛くても希望を見つけるといのが賢治さんの考えたから

クラス全員のカードを見ることができ、共有したり友達の考えを参考にしたり、コメントを送ったりすることができる

データを蓄積できるので、考えの変化を比べやすい

【事例におけるICT活用の場面③】

資料『イーハトーヴの夢』を読み、資料を活用して、宮沢賢治の生涯や生き方・考え方を学習支援ソフトでまとめる学習をした。

項目のみ示しておく

- ①生まれ・子供の頃
- ②教師として
- ③作品
- ④イーハトーヴへの思い
- ⑤農業
- ⑥会社の経営者として
- ⑦病気
- ⑧死・その後
- 【調べてみた自分の考え】

☆児童一人一人が資料をよく読もうとし、資料の活用の仕方を自分で考える力がつく

☆大事な言葉や内容を選び、要約する力がつく

②教師として

賢治は花巻に出来た郡立稗農学校の先生になります。

賢治の先生としての理想は、
苦しい農作業の中に、楽しさを見つける。
工夫することに、喜びを見つける。
そして、未来に希望を持つ。
ことでした。

④イーハトーヴへの思い

賢治の物語の舞台となっているのが賢治が作りあげたイーハトーヴという場所です。イーハトーヴは岩手県と同じ大きさをし、名前も似ていることから、賢治は

この岩手県が、いつか、こんな夢のようなすてきな所になったらいいな。

と思い、「イーハトーヴ」という地名にしたのだと考えられています。

⑥会社の経営者として

賢治は石灰肥料会社の共同経営者になり、毎日毎日土地改良に役立ったために東北一帯をあるき回りました。

肥料をまく量を教えるボランティアもしていた。

⑧死・その後

その次の日に賢治は午後1時30分に息を引き取りました。

当時は受け入れられてもらえなかった賢治の作品は、その後大人気作となり、今では外国語に翻訳されたりもして、様々な人が親しんでいます。

①生まれ・子供の頃

1896年（明治29年）8月27日・岩手県の花巻で生まれた。家は質店でとても裕福な暮らしをしていました。

小学6年生の時に身長・133.9cm、体重・29kg ととても小柄な体型をしていた。

大人しく、石を集めたりする一人遊びが好きだった。そんな賢治はみんなから「石こ賢さん」と呼ばれていた。

③作品

また、賢治はお互い優しい心を通い合わせるためにたくさん詩や童話を書きました。

やまなし
やまなし
やまなし
やまなし

銀河鉄道の夜
ガスコープドリの伝記

⑤農業に対する考え

賢治は、農業に対する考え方が変わっていました。

「一度に大勢の生徒を相手に理想を語るのではなく、自分も農民になって、自分で耕しながら人と話さなければ。」

↓

羅須地人協会を開いた。

⑦病気になった賢治

賢治は病気になってしまふ。

起き上がることも出来なくなり、衰弱してしまふ。

急性肺炎を起こし、呼吸をするのが難しくなるほど苦しかったが、夜遅くに来た来客には一時間つきっきり肥料の事を教えてあげた。

【調べてみての自分の感想】

私は宮沢賢治さんの生涯を調べてみて、賢治さんは様々なことに挑戦して、自分の意志を強く持って生活しているところに感激しました。また、賢治さんは詩や童話の他に農業や先生をしていることを初めて知りました。私は賢治さんのように自分の意志を強く持ち、様々な事に挑戦し、他の人の役に立てる仕事をしたいと思いました。